



プレリユード

私は、この物語を、ショパンのCDを聴きながら、オルヴィエート（Orvieto）ワインを、ほんの少しずつ舐めながら、書いてます。

プロカニコ種と呼ばれるトレッビアーノ・トスカーノ種主体に、ヴェルデッロ、グレケット、マルヴァジア種などを加えて造られる辛口から甘口までの白ワイン。やや濃い麦藁色で上品な花の香りを含み、まろやかな味わいがある。

なぜか、南会津の酒蔵で醸造される地酒、「花泉」を彷彿とさせる。

紀子と侑子

「あと何十年か、私が若かったら、多分私は、あなたにプロポーズしていたはずだ。いや、あの時、私は、きっとプロポーズしたはずだ。

あなたは、そのころどこにいたのかな。」

「私が生まれるのは、もっともっとずっと後のことです。まだ、私の父と母は結婚すらしておりません。

そのために、あなたにお目に掛ることできなかったのです。大変長らくお待たせして、申し訳ございません。・・・

『私は、確かにあなたに、プロポーズされました。しかも、私はそれを、お受けしました。』と、
母の紀子でしたら、多分、そうお答えしたでしょう。」

—

「私の母は、5年前に亡くなりましたが、私が上京してから、母はなんとか、私のアパートを訪れました。

そして、あなたのことは、寝物語に一度聞いておりました。

私はその瞬間、すべてを理解した。

「お母さんはどうして、・・・」

「乳がんでした。発見されたときは、もう肺やリンパ節に転移していて、手遅れでした。」